
I S 一夏の弟は天才科学者

如月 光太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS 一夏の弟は天才科学者

【Nコード】

N2217Z

【作者名】

如月 光太郎

【あらすじ】

ISを初めて動かした男 織斑 一夏 には天才と呼ばれる科学者がいた。これは、一夏とその弟 織斑 零春の物語である。
作者初投稿です。処女作です

（前書き）

初投稿です。 よろしくお願いします。

~~~~~

おれは今音楽を聴いている。

おきにいりの曲だ。

自己紹介がまだだったか。

俺の名は織斑 零春 だ。

今は千冬姉ちゃんにつれられてIS学園とゆうところに来ている。  
なんか俺の作ってしまった学習装置テストメントが問題で世界が騒ぎ出した。  
別に大したもの作ったわけじゃないんだけどな

んで、世界に狙われると大変だからIS学園でかくまってくれることになったらしい。

別になにが来たって捕縛して、じっけんするだけなんだけどな

「……………はい。これで終わりです。お疲れさまでした。」

「

「いえ、こちらこそ、無理言っすいませんでした。」

書類整理が終わったようだ。

「行くぞ。零春。」

「はい。」

「とりあえずお前は今日からIS学園に通ってもらつ。」  
マジデス力。俺まだ13歳なんだけどな

「なにを言っている。お前の頭があれば大学にも行けるだろうが。」  
あ。千冬姉ちゃんそういえば読心術使えるんだっけ・・・俺だけに  
「お前の思考は分かりやすいからな」

・・・勝手に心を読むな！！

「すまない。」

読むなと言ってるだろうが！！

「・・・まあ、いい。とりあえずお前には一夏と同じクラスに入ってもらおう。」

担任は私だ。せいぜい気を抜くなよ。」

「はいはい。ま、頑張ってみますよ。」

そうこうしているうちに教室についてしまった。

「つてえっ！」

「その反抗的な眼は何だ馬鹿者」

千冬姉ちゃんが入った途端空気が変わり、そして一夏の事を出席簿ではたいていた。

「遅れた新入生だ。入れ」

ドアを開けて教室に入る。

「まずは、自己紹介からだ。織斑」

苗字を言った途端教室がざわついたな。

「えっとー。今日からこのIS学園に通うことになりました。織斑零春っていい嘛ーす。」

ちなみにそこにいる一夏の弟でーす。遅れたのは、書類整理が時間かかったからでーす。とりあえず、よろしくお願いしまーす」  
「・・・え？」

「今、たしか・・・」

「弟って・・・」

「ん？」

「「「てことは・・・男？」」」

「ああ、そうだが」

「「「キヤーーーーー！！！」」」

「男よ！男！！二人目の！！！」

「しかも童顔だし、かわいいーーーー！！！」

男が来てそんなに騒ぐかね？普通

「静かにせんか。貴様たち。」

教卓を出席簿で叩きながらいうと一瞬で教室が静まり返った。

「零春」

「はい。」

「とりあえず貴様は一夏の隣だ。後、まじめに返事をせんか。馬鹿者」

出席簿で殴られそうになったがオフエンスアーマー室素装甲でガードした。反射能力使ってもいいんだが手首こわされるとめんどくさいんでな。

「後、あまり超能力を使うな。」

「はいはい」

「そして諸君、私が織斑千冬だ。君たち新人を一年で使い物になる操縦者に育てるのが仕事だ。私の言うことはよく聞き、よく理解しろ。出来ない者には出来るまで指導してやる。私の仕事は弱冠十五歳を十六歳までに鍛え抜くことだ。逆らってもいいが、私の言うことは聞け。いいな」

千冬姉ちゃんがあいさつした途端

「きゃあああつ！千冬様、本物の千冬様よ！」

「ずっとファンでした！」

「私、お姉さまに憧れてこの学園に来たんです！北九州から！」  
ものすごいこえが飛び交っていた

こうして俺の学園生活が始まったのであった。

（後書き）

誤字脱字等あったら、教えてください。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2217z/>

---

I S 一夏の弟は天才科学者

2011年12月7日23時54分発行